

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol.230
2024.12.20

特集

南山大学
外国人留学生別科
50周年



1970s



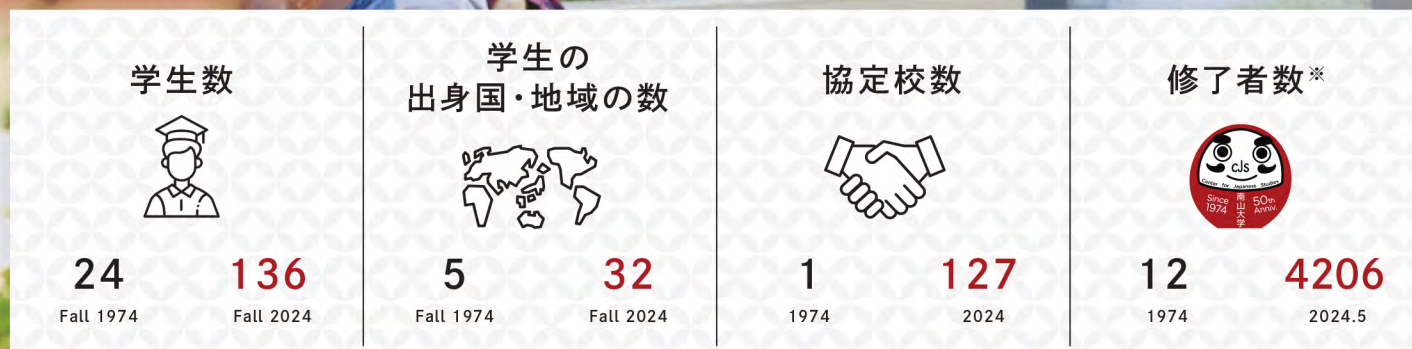
2020s

NANZAN
UNIVERSITY

南山大学外国人留学生別科50周年

南山大学外国人留学生別科(CJS:Center for Japanese Studies)は、創設以来、大学における日本語教育機関として世界の教育機関から高い評価を受けてきました。現在では、南山大学における交換留学生の受入れプログラムとして、毎学期約150名の世界中からの外国人留学生が南山大学のキャンパスで学び、また、南山生が世界中の協定校に留学し、かけがえのない経験をしています。

◆数字で見るCJS



※連続する2学期間において必要な単位数を修得した学生数

◆新たなステップへ

50周年の節目に外国人留学生別科は新たな転機を迎えています。従来の日本語・日本事情教育プログラムとして完結したものではなく、南山生との「国際共修」を実現するプログラムとして、より充実した内容へ発展しています。

●国際共修の実現

学部科目を「オープン科目」として、外国人留学生別科で開講し、南山生と外国人留学生が共に学ぶ機会を提供しています。「国際共修」とは、ただ同じ教室で講義を聴いているだけではなく、文化や言語の異なる学生同士が協働学習体験を通して、他者を理解し、自己を見つめなおし新しい価値観を創出する過程を指します。まさに南山大学の教育モットーである「人間の尊厳のために」に通じる取り組みです。

●活発な交流活動

南山生とCJS生の交流は授業だけではなく、さまざまな場面で生まれています。本学の国際交流の拠点である「多文化交流ラウンジ」「ジャパンプラザ」「ワールドプラザ」も多くのCJS生が利用し、交流バス旅行では南山生とCJS生がともに一日バス旅行を楽しみます。これらの出会いの中で、互いに新たな学びを得ていきます。



授業紹介

Academic Studies V: Collaborate with Japanese Students to Research and Analyze やさしい日本語

担当教員：北村雅則

南山生とCJS生が協働して、日本人も留学生も共に理解できる学内共通言語(やさしい日本語)が何かを考える授業です。お互いに意見を出し合い、思いがけない共通点や違いを発見し、新たな価値観を見出します。



◆プログラムの紹介

外国人留学生別科は海外の学年暦に合わせ、9月～5月にプログラムを提供しています。また、6月～7月にはサマープログラムも実施しています。

●Intensive Japanese Program

国際社会で通用する日本語能力を習得することを目標とする、集中日本語コースです。日本語と日本文化に関する深い知識とスキルを身につけることで、翻訳者・通訳者、国際的な教育者・研究者、国際的なビジネスパーソン、外交官など、専門分野で活躍する人材を育成することを目的としています。



●Modern Japan Program

日本に対する関心や理解をより深めることを目的とし、日本の政治、歴史、ポップカルチャーなど幅広いテーマの現代日本科目、日本事情科目を中心に学びます。また、初級から中級レベルの総合的な日本語のコミュニケーション能力を養うコースを提供しています。



●Summer Program

8週間の短期日本語集中プログラムで、南山生との必修科目も多く開講されています。南山生との大須商店街巡りや大相撲名古屋場所観戦ツアーなど、名古屋らしいプログラムが提供されています。



◆こんな授業もあります！

Japanese Martial Arts (武道)

担当教員：O'Connell, Sean

空手を通して、日本の武道の世界を探索していく授業です。実践とディスカッションで日本の武道の歴史や発展、現代日本社会における位置づけを紹介することで、日本の武道の精神的側面にも目を向けます。空手の基本的な技術(蹴り、突き、受けなど)も紹介します。



Japanese for Volunteering

担当教員：近藤純子

この授業は、日本の小学校でのボランティア活動を通じて、社会性や異文化理解力を養うことを目的としています。留学生たちは南山大学附属小学校を訪問し、児童との交流のための文化紹介やアクティビティを準備・実施します。訪問後には学びを共有し、経験を振り返ることで理解を深めます。



◆修了生の声

CJSの修了生であるキサラ学長に当時の思い出を聞いてみました。

ロバート・キサラ
(アメリカ)
南山学長

CJS在籍期間：
1978年～1980年、
1985年～1987年



キサラ学長のCJSでの思い出
続きはWebページからご確認ください。
外国人留学生別科創設50周年特設Webページ
<https://www.nanzan-u.ac.jp/cjs50th/>



私が外国人留学生別科を初めて経験したのは、別科創設からわずか4年後の1978年でした。当時、私は南山中学校女子部で英会話を教えるために、2年間の予定で来日していましたが、別科は私のようなフルタイムで働いている人のために、パートタイムの語学プログラムを提供してくれました。2年後、私は神学を学ぶために米国に戻り、1985年に叙階されてから再び来日しました。その後、別科のフルタイムの学生になりました。私がいなかった数年間で、別科はさまざまな文化的背景を持つ学生の数という点で大幅に成長しました。オランダ、スペイン、台湾、マレーシア、ベトナム、アメリカからの学生と一緒に勉強しました。別科の集中語学プログラムは私にとってとても役に立ち、その後の東京での大学院研究と南山大学での継続的な勤務のための強固な基盤を与えてくれました。教師たちはプロフェッショナルであるとともにフレンドリーで、クラスとして何人かの教師の家に招待されたことを懐かしく覚えています。別科の事務局のスタッフも、私たちがぐつろげるように、そして異文化の中での日常生活で直面する文化の違いを乗り越えられるよう、尽力してくれました。



Special Events

2024.8.5-9.21

小・中学生向け講座 「大学で、未来の自分を 探してみよう!」

8月5日から9月21日にかけて、南山大学の知的財産を地域に還元することを目的として、小学生(4～6年生)・中学生を対象とした8講座を開講しました。

小学生向け講座は、117名が、中学生向け講座は98名が参加し、各々の講座で楽しく学んでいました。



▲小学生向け講座
「考古学者になりきろう!ー縄文土器を研究する」



▲中学生向け講座「ロボット・モータ制御の仕組みを知ろう」

2024.8.29

総合政策学部秋学期入学者卒業式

8月29日、フラッテンホールにて総合政策学部秋学期入学者卒業式を行いました。式典の様子はZoomでも配信され、後輩たちが見送る中9名の学生が卒業しました。



2024.9.13

2024年度9月卒業式

9月13日、フラッテンホールにて2024年度9月卒業式を行いました。指導司祭による祈りと聖書朗読の後、各学部および研究科代表者に学位記が授与され、63名が卒業しました。



2024.9.13

2024年度秋学期入学式

9月13日、フラッテンホールにて2024年度秋学期入学式を行いました。学部生、大学院生、外国人留学生別科生合わせて146名が入学し、華やかな式典となりました。



2024.9.28

保護者の集い

9月28日、南山大学と南山大学後援会の共催で、第52回南山大学「保護者の集い」を開催しました。今年度は、たくさんの方の保護者の皆様をキャンパスにお招きすることができ、現地参加とオンライン参加のハイブリッドで実施しました。

全体集会では、キサラ学長と大橋後援会理事長のご挨拶の後、本学教員より学生生活、進路支援の方針、2023年度および2024年度の就職状況、国際教育について説明しました。

後援会企画では、「山里キャンパス」60周年記念事業の一環として「南山大学のルーツとその学び舎～Beautiful Campus, Nanzan Mind～」と題し、キサラ学長と奥田副学長によるリレー講演を行いました。



▲全体集会



▲奥田副学長による講演「南山大学の美しき学び舎」



▲学部・学科懇談会会場(法学部)

2024.10.1-10.2

秋のフレッシュマン祭

10月1～2日、秋のフレッシュマン祭を開催しました。クラブ・サークルの新入部員を勧誘するため、フェンシング部、表千家茶道部など27団体がキャンパス内でチラシの配布や教室等でのイベントを実施しました。



2024.10.27

受験生と保護者のための入試説明会

10月27日、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試の受験を検討している方を対象とした入試説明会「受験生と保護者のための入試説明会」を実施しました。

受験生向けには、河合塾講師による一般選抜入試対策講座や学部学科説明等を行い、保護者向けには、受験生と関わる親の心構え講座などを実施しました。

大学開催型とオンライン開催型と合わせて、1,101名の方にご参加いただきました。



2024.10.30

南山大学附属小学校1年生 遠足

10月30日、南山大学附属小学校1年生の遠足が南山大学で実施されました。南山大学でのさまざまな体験を通して、校訓についての理解を深めることなどを目的としています。小学生たちはオリエンテーリングでチェックポイントを回り、普段入ることのない大学での体験活動を楽しんでいました。また、留学生に英語で質問をしたり、大学生にインタビューをしたり、グリーンエリアやメインストリートを中心に、にぎやかな声が聞こえてきました。



Special Events

2024.11.2-4

第75回大学祭

11月2～4日の3日間、第75回大学祭を開催しました。今年のテーマは「瞬(またたく)」。

今この瞬間を大切に、関わってくださった方の記憶に残るような大学祭にしたい、また、一瞬一瞬の積み重ねでできた大学祭を楽しんでほしいという願いが込められています。

メインストリートには30店舗の模擬店企画が並び、パッハスクエアに設置されたメインステージや、H棟横のサブステージでは、バンド演奏やダンスパフォーマンスなどがにぎやかに行われました。11月2日の初日はあいにくの雨でしたが、2日目からは天候にも恵まれ、3日間を通して約12,200名の方にご来場いただきました。11月3日には南山大学同窓会主催の「ホームカミングデー」も開催され、連日大盛況の大学祭になりました。



Special Events Schedule

2025.3.20

2024年度 南山大学卒業式

開催日時：2025年3月20日(木) 第1部 午後1時より 第2部 午後3時15分より

内 訳：【第1部】 外国語学部、法学部、理工学部、国際教養学部、国際地域文化研究科、法学研究科、理工学研究科、法務研究科

【第2部】 人文学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、人間文化研究科、社会科学研究科

問合せ先：総務課 (Phone:052-832-3112)

本学卒業生の菊地功東京大司教が、ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇により枢機卿に任命

本学卒業生の菊地功東京大司教が、ローマ・カトリック教会で教皇に次ぐ高位聖職者である枢機卿に任命されることが発表されました。

菊地大司教は、南山高等学校男子部、南山大学文学部神学科を卒業し、南山大学大学院文学研究科神学専攻博士前期課程を修了されました。1986年に南山教会で司祭に叙階され、西アフリカでの司牧活動、カトリック神言修道会日本

管区長、カリタスジャパン責任司教などを歴任された他、南山大学ならびに南山短期大学の非常勤講師も務められました。2017年に日本で一番大きな教区である東京教区の大司教に任命され、2023年には国際カリタス総裁に選出されました。

菊地功東京大司教
写真提供：カトリック東京大司教区



カトリック系高等学校4校との高大連携に関する協定締結式を実施

7月22日、カトリック系高等学校4校、浜松聖星高等学校、聖カピタニオ女子高等学校、光ヶ丘女子高等学校、四日市メリノール学院中学校・高等学校との高大連携に関する協定締結式を行いました。

キリスト教世界観に基づく学校教育を行う本学では、2022年12月にカトリック系高等学校との高大連携協定を締結し、2024年度入試より当該協定校を対象とした「推薦入学審査（特別協定校）」を実施してきました。こ

の度、この制度を拡充し、新たに4校の高等学校と協定を締結しました。この連携により、幅広い教養と高い専門性を持った、国際社会におけるリーダーとなり得る優秀な人材を育成することを目指します。

左から：
四日市メリノール学院中学校・高等学校 高木義成学校長、
光ヶ丘女子高等学校 小林三佐子学校長、
ロバート・キサラ学長、
聖カピタニオ女子高等学校 村手元樹校長、
浜松聖星高等学校 野村賢一校長



アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会とのパートナーシップ協定締結式を開催

10月17日、アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会とのパートナーシップ協定締結式を本学にて開催しました。

両機関は教育・文化分野でフランス語と文化を日本に普及させる共通目標を掲げ、この協定により、フランス語を学ぶ学生の国際的なキャリア意識や学習意欲を高めることを目的とした教育的な取り組みを展開していきます。

協定締結式終了後にはキャンパスツアーを行い、本学の外国語学部フランス学科の学生3名がドロテ・リアル館長をフランス語でご案内しました。

左から：
アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会
ドロテ・リアル館長、藤岡高広会長
南山大学
ロバート・キサラ学長、山岸敬和副学長



活躍する南山大生

日本代表として「World Skate Games 2024」に出場！双子のインラインスケーター

9月10日からイタリアで開催された「World Skate Games 2024」に、理工学部機械システム工学科 3年小林慈侑さんと理工学部電子情報工学科3年小林慈怜さんがインラインフリースタイル日本代表として出場しました。

おふたりは、5月12日に福井県大野市で開催された「ナンシンカップ 第

13回全日本フリースタイルスケート選手権大会」のペア演技において2位、スピードスラロームにおいて兄の小林慈侑さんが自身の持つ日本記録を更新し、優勝しました。

今後も世界レベルのさらなる活躍が期待されます！



▲「World Skate Games 2024」でペア演技に出場した小林慈侑さん(左)、慈怜さん(右)



▲スピードスラロームで日本新記録を更新し優勝した小林慈侑さん



私の研究



川本 真哉(かわもと しんや)
経済学部 経済学科 教授
専攻分野：コーポレート・ガバナンス論
研究テーマ：日本のM&Aの実証分析
主な担当科目：数量経済史

データ分析から日本企業の過去と現在を読み解く

私の研究分野は「コーポレート・ガバナンス」の現状や歴史分析となります。ビジネスマンの間で注目を集めている分野となりますが、定義すると「企業の成長を促したり、不祥事を抑制したりするために、いかに経営者をけん制するか」という感じでしょうか。

この分野では、近年、急速にデータ分析によるアプローチが普及しつつあります。背景には、パーソナルコンピューターの低価格化と精度向上により、個人でも大量の企業データを扱えるようになったこと、それを受けEBPM (Evidence Based Policy Making: 証拠に基づく政策立案) の概念を土台とした研究アプローチが推進されてきていることが挙げられます。

こうした状況を念頭に、私はコーポレート・ガバナンス研究でもその中心と捉えられ、実務的にも関心が高い企業の「合併と買収 (Mergers and Acquisitions : M&A)」の動機と成果のデータ分析を歴史と現状の両面から進めています。分析を進めると、歴史的に日本企業はM&Aに積極的であり、成長戦略の有力なツールとして位置づけてきたことがわかりました。日本企業のM&Aの歴史と現状の分析を進める作業を通して、日本経済の過去・現在・未来を把握し、見定めることができると考えています。



▲著者の研究成果(中央経済社、日本評論社)

私のクラス



初山 洋介 (もみやま ようすけ)
人文学部 日本文化学科 教授
専攻分野：認知言語学、意味論
研究テーマ：百科事典的意味観に基づく意味の解明、言葉遊びとレトリック
主な担当科目：現代日本語の構造、言語分析A、ことばとは

身近な言葉の意味を解き明かす楽しみ

私の授業は、言語学の意味論の考え方に基づき、現代日本語の語等の表現の意味を分析・記述できるようになることを目指すものです。特に、類義語(「言い訳／弁解」等)および関連する複数の意味を有する多義語(「かたいパン／優勝はかたい／かたい表情」等)の分析は重要なテーマです。また、認知意味論の枠組みで、同様の物事を表す諸々の表現(「二十歳が近づく／二十歳に近づく」等)の意味の違いについても考察します。いずれの場合も、現代日本語の実例(新聞や小説等の表現)を観察し、自分の頭の中にある日本語の直観に照らし合わせ、この分野の分析方法に基づき考察を進めます。

さて、一口に日本語話者と言っても多様性があり、さまざまな事例に触れること

で学生各自が自分の日本語(の知識・直観)の位置づけを知ることも大事な狙いの1つです。学生と私の日本語にも相当な違いがあり、私自身が学生から新しい言葉、新しい意味を学ぶことも日常的なことです(近年、「推し」「沼」等の語についての理解が深まりました)。

授業の受講者、ゼミの学生は熱心に取り組む人が多く、言語学の方法をきちんと身につけて書かれた、力作のレポート・卒論を読むのも楽しみの1つです。最近、言葉遊びとレトリックについても授業で取り上げるようになり、このテーマで興味深い卒論を書いた学生、書いている学生もいます。



▲「現代日本語の構造」の授業の様子



INTERNATIONAL FRIENDSHIP



ASEACCU (東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議に参加して

ASEACCU(The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities) には、オーストラリア、カンボジア、インドネシア、フィリピン、タイ、台湾、韓国、日本などから91校が加盟しており、1993年以降2年に1度国際学生会議(STUDENT CONFERENCE)が開催されています。

期 間：2024年8月20日～8月23日
場 所：Australian Catholic University, North Sydney Campus(オーストラリア・シドニー)
テーマ：“What makes a Catholic University Catholic?”
Expressing and Integrating Identity and Mission
参加者：難波春子さん(国際教養学部国際教養学科4年)
三ノ京大翔さん(理工学部データサイエンス学科2年)



✉ 難波春子さん感想

今年のASEACCUのテーマである「カトリック大学をカトリックたらしめるものは何か」という問いを通して、カトリック大学で学ぶことの意義を再確認すると共に、改めて南山大学の学生としての自覚と誇りを持つことができました。

会議では、市民社会におけるカトリック大学の役割について議論したり、学生が主体的に社会貢献に取り組むための方法を模索したりしました。参加学生の大半がカトリック信者だったこともあり、新たな発見に刺激を受けながら有意義な時間を過ごしました。

またASEACCUで出会った友人の人柄や思いやりに溢れた行動も印象的でした。彼らの信条の実践を目の当たりにしたことで、自他の尊厳を重んじる心を育むことがカトリック大学の使命であ

り、南山大学が掲げる「Hominis Dignitati(人間の尊厳のために)」というモットーの意味するところであると感じました。

最高学年を迎える年に、南山大学での4年間と今後の人生を見つめ直す機会を頂けたことに心から感謝しています。ASEACCUを通して培った経験とかけがえのない仲間を大切に、これからも“人間の尊厳のために”を考え続けられる自分でありたいです。

ともに参加した三ノ京さんと(右が難波さん)▲



✉ 三ノ京大翔さん感想

今回のテーマは、‘What makes a Catholic University Catholic?’ (カトリック大学がカトリックであるには) というものでした。学生として大学の視点に立つて、このテーマに取り組むのは、とても興味深く、多くのことを考える機会になりました。実際このテーマに対して考えられる回答はさまざまで、倫理観を教えること、学生の人間性を成長させること、すべての人に平等な教育の機会を与えることなど、どれも正解で大切なことだと感じました。同時に大学がどんなに良い環境を用意してくれても、それを吸収して生かせるかどうかは学生次第だということも感じました。そして今回、ミサやカトリック信者の学生と交流する経験をして、慈愛や全ての人が平等であるといったカトリックの教えの優しさに感銘を受けました。この

経験を胸に、これから大学で社会問題に関わる課題や研究に取り組む時も、優しさをもってそれらを遂行し、自分の人間性を成長させていきたいです。最後に、今回出会った人たちは素晴らしい人たちばかりでした。この機会と関わって下さった方々にとても感謝しています。

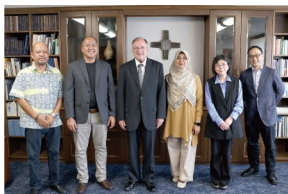


▲各国からの学生との交流(右端が三ノ京さん)



2024.10.1

マレーシア科学大学からAzril Ali副学部長はじめ3名の教職員が来学され、キサラ学長を表敬訪問されました。政策研修プログラム(NAP)や、学生間交流の拡大についての意見交換が行われました。



左から:Kelana Ahmad 氏、Azril Ali副学部長、キサラ学長、Azlina Md. Sadik氏、▲久村恵子総合政策学部長、佐藤創総合政策学科長

2024.10.16

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館からメラニー・ザクシンガー総領事が来学され、キサラ学長を表敬訪問されました。本学とドイツの学生間交流について意見交換を行い、今後の日本とドイツの友好関係について議論を交わしました。



▲左から:メラニー・ザクシンガー総領事、キサラ学長

Information

■ 2025年度学生納付金について

2025年度南山大学学生納付金について、2024年3月22日開催の学園理事会において以下の通り2024年度と同額とすることを決定しました。

◎学部学生(2020年度以前入学生)

理工学部を除く学部については、授業料を718,000円とするとともに、施設設備費を210,000円とする。

理工学部については、授業料を818,000円とするとともに、施設設備費を210,000円とする。

◎学部学生(2021年度以降入学生)

理工学部を除く学部については、授業料を750,000円とするとともに、教育充実費を240,000円とする。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生および2年次生は18,000円、3年次生は9,000円とする。

理工学部については、授業料を750,000円とするとともに、教育充実費を340,000円とする。

◎大学院学生

理工学研究科および法務研究科を除く研究科については、授業料を574,000円とするとともに、施設設備費を105,000円とする。

理工学研究科については、授業料を654,000円とするとともに、施設設備費を105,000円とする。

法務研究科については、授業料を1,000,000円とするとともに、施設設備費を200,000円とする。

【2025年度学生納付金徴収(引落)日】

・春学期(第1・第2クォーター分) 2025年4月14日(月)

・秋学期(第3・第4クォーター分) 2025年9月29日(月)

各学期の公示、および学納金通知はがきにてご案内いたしますので、ご確認ください。

■ YaMazat60

「山里キャンパス」60周年を記念して、さまざまな企画を実施しています。特設サイトでは、本企画の発起人である副学長による対談や、学部長インタビュー「学部長が語る南山大学」などを掲載しています。どなたでも参加可能なフォトコンテストも開催中です。ぜひご覧ください。



■ 寄附者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

近藤真由様	匿名ご希望者	南山大学同窓会 会長 松岳大樹様
山田重人様	6名様	株式会社キャリア・ナビゲーション
西村佑樹様		代表取締役 長嶋哲夫様
塩田洋千様		日本税理士会連合会 会長 太田直樹様

「南山大学創立75周年記念募金」へのご協力に感謝いたします。

近藤真由様	吉田学様	武藤規子様	斎藤立子様	平内敦子様
市原幸造様	中根勝美様	飯森敏史様	坂野加主子様	村上聡志様
青山寿様	相山和子様	安井信之様	小田茂樹様	野尻久美子様
藤本絢子様	中村美枝様	島圭子様	成田文昭様	金森勲様
阿部恵美子様	吉田加子様	脇岡敬子様	清水敏行様	
山田啓子様	若月永子様	福生公子様	伊藤威知郎様	
木下裕太郎様	加藤彰一様	杓谷啓太様	萱野洋子様	
武市直子様	石黒勝様	細井正様	櫛田康代様	匿名ご希望者
大村博之様	樋口慎二様	伊東章晴様	高松克行様	25名様

「南山大学博士後期課程奨学支援募金」へのご協力に感謝いたします。

近藤真由様	森薫様	佐渡茂様	伊東章晴様	匿名ご希望者
				3名様

■ 新任教員紹介

2024年10月1日付

●外国語学部 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
特別任用講師 (ロハス エスピノーサ ロレーナ ス)
(専攻分野:スペイン語教育、異文化コミュニケーション)

■ 本学名誉教授 青山玄氏のご逝去

本学名誉教授の青山玄氏(93歳)が、2024年7月15日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

■ 本学名誉教授 内藤克彦氏のご逝去

本学名誉教授の内藤克彦氏(96歳)が、2024年8月4日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

■ 本学名誉教授 石橋泰助氏のご逝去

本学名誉教授の石橋泰助氏(89歳)が、2024年9月19日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

本学では、学生の活動などをWebページ「NANZAN Today」、Instagram、Facebookでも紹介しています。ぜひご覧ください。

NANZAN Today



Instagram



Facebook



南山大学

発行 広報・募金課 / 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: pr-gaku@nanzan-u.ac.jp <https://www.nanzan-u.ac.jp/>